



通門
170
卷

明治三十八年
九月十一日

たのぶ

俄人感之日記卷之八

木下

普

身一 松の尾のそのうら 懸板に電燈の風

我々どれも乃物くらゐどの一白うけ

草外中との福権とまの美樹好の

身一 久米此人の坂道へぼひ乃山神

美理の宵と信と便言謝の

伊人の悪業高の法に此を自の欲平



Red square seal with characters: 木下



あつた
びんが
の
あつた
びんが



あつた
びんが
の
あつた
びんが



山

初んがう神
うささる
ふとめけ
かきさる

王の侍

二本
かざきま
長命のあ
とらえて
け後の
校と
ささる
ま

さるさる

仙

五



明和十年 己 正月吉日

河芝神明前

奥村喜兵衛

同是橋通南三町目

前川六左衛門

大坂嵩之内鋸屋町

西田屋利兵衛

京三条通富路西北町

野田藤八開板

文獻...

